



「原子力安全」調査専門委員会 第1回 放射線影響分科会

平成23年4月30日13時から、「原子力安全」調査専門委員会第1回放射線影響分科会（分科会主査：占部逸正）を開催した。

本分科会は以下の役割を担うことの確認がなされた。「1. 環境および周辺住民と災害対応に当たる防災関係者の被ばくを合理的に達成できるかぎり低減することに寄与すること」、「2. 長期的な視野から、これからも引き続き生じる可能性のある諸問題の検討に寄与し得る客観的な放射線学的情報を整備しておくこと」、「3. 原子力災害の特殊性を考慮し、得られた情報を分かりやすい形で国民および世界に発信すること」。

この視点より、環境放射線情報の把握、被ばく線量評価の基礎となる放射性物質の分布の実態把握、住民及び防護対策に関与する作業者の被ばく管理、環境回復措置の目標と課題の明確化に焦点をあてて、今後、活動を進めることとなった。

環境放射線情報の把握については、文部科学省、原子力安全委員会等が公表している福島第一原子力発電所周辺の空間線量、土壌中放射性物質の濃度の経時変化等、現状についての整理状況の報告があった。また、放出放射性物質量の推定の試みが紹介された。これらの課題は整理し、今後取りまとめを行うこととなった。分科会から国への提言について、提言項目を確認するとともに、内容について検討した。提言は、さらに検討し、早急にHP等に掲載することとなった。最後に、現存被ばく状況の放射線防護の考え方について意見交換をした。

以上